

第62回 中国高等学校ソフトテニス選手権大会

審判より

1. 個人戦について

- (1) 4回戦までは、各コートの第1試合を除き、全て敗者審判とする。
- (2) 審判バッジを左胸に着用し審判を行うこと。(ない場合はコート主任席で貸し出す)
- (3) マッチ開始、終了時には、正審が東新川駅側、副審がその隣に整列する。
- (4) 準々決勝以降は、山口県審判委員が行う。
- (5) 準々決勝以降は審判団が、選手集合場所から入退場の誘導をする。
- (6) 準決勝、決勝は線審をつけて行う。

2. 団体戦について

- (1) 審判は山口県審判委員が行う。
- (2) 準決勝、決勝は線審をつけて行う。
- (3) 1回戦および2コート(女子)、10コート(男子)の2回戦についてはオーダー提出後、試合の行われるコートへ集合する。
- (4) (3)以降の対戦については、前の対戦が終了して20分後までに「チーム集合場所」へ集合し、審判団が入退場の誘導をする。
- (5) 監督と試合をしていない選手はベンチに座る。ただし、次に出場する選手のアップは、対戦しているコートの端で、試合の妨げにならないラケットやボールを使わないもののみ認める。
- (6) 2面展開(3面展開)の対戦において、ベンチは使用するコートの中央に配置する。
- (7) 1試合目に出場するプレイヤーは、コート中央で整列・対戦の挨拶後1分以内に試合のできる服装(ウェア)でサーブラインに整列し、マッチが開始できるようにする(2・3試合目のプレイヤーも同様(ウェア)とする。できていない場合は警告を与えることがある。

3. 競技規則(15条、38条、40条)関連により、次のことは警告(イエローカード)の対象とする。

- (1) 連続的プレーに関する違反に該当し、「レツプレー」と促し注意を与え、それでも従わない場合。
(ゲームの進行に支障をきたすようなパートナー同士の打ち合わせや、選手と観客席の応援団との一体となった応援などに対する行為)
- (2) コート外からの助言や、監督(ベンチ入り指導者)からのチェンジサイズ、ファイナルゲームに入る前以外の助言。マッチ中にジェスチャーによる助言も対象となる。
- (3) 過度の応援、威嚇、不快な発言とアンパイヤーが判断した場合。
- (4) アンパイヤーのコール時、掛け声や声援などでコールの妨げになっている場合は、注意を促し、次回からは警告の対象とする。

4. ブザーについて(競技規則15条関連)

- (1) 開始時の挨拶後の練習、1、3、5、6ゲーム終了後は45秒で1回目を鳴らし、1分経過で2回目を鳴らすとともに、注意を与える。同一マッチで2回目以降は警告を与える。
- (2) 2、4ゲーム終了後とファイナルゲームのチェンジサイズ時の給水は、25秒でブザーを1回鳴らす。
- (3) 次のポイントを開始する態勢に入ることができていない場合、警告を与える。
- (4) 団体戦の1番手のプレイヤーは、開始の挨拶後1分以内にサーブラインに整列できるよう、45秒でブザーを鳴らす。2番手以降のプレイヤーは、前の対戦終了の挨拶後1分以内に整列できるよう、同様に45秒でブザーを鳴らす。

5. その他

- (1) 警告（イエローカード）は、コート主任が出す場合がある。
- (2) ガットが切れた場合に、予備のラケットを取りに行くことは、「遅延行為」または「ラケットの修理」とみなさないが、プレーが速やかに再開できるようにする。
- (3) マッチ中に、プレーヤーに身体上の支障が生じ、正審がタイムを認めた場合、そのタイム中にボール、を使った練習は認めない。

<参考>

競技規則第15条（プレーヤーの心得）

プレーヤーは互いにマナーを尊重し、次の事項を守らなければならない。

- (1) 過度のかけ声、又は相手を不快にする発声をしないこと。
- (2) マッチの開始から終了まで連続的にプレーし、次の行為をしてはならない。ただし、サイドのチェンジ及びファイナルゲームに入る場合（中略）は、ポイントの終了から1分以内に次のポイントを開始する態勢に入るものとする（レッツプレー）
 - ア 相手がレシーブの構えをしているのにサービスをせず、または相手方がサービスをしようとしているのにレシーブの構えをしないこと。
 - イ 故意にゲームを長びかせる行為をすること。
 - ウ マッチの進行に支障となる状態でパートナー同士の打ち合わせをしたり、又は休息をすること。
 - エ ゲーム終了後次のゲームにうつる構えをしないこと。

競技規則第38条（禁止事項）

プレーヤーはマッチ中パートナー以外の者から助言及び身体上の手当てを受けてはならない。ただし、正審がレフェリーと協議の上必要と認めた場合を除く。

- 2（前略）プレーヤー以外に「部長・監督・コーチ（外部コーチを含む。以下同じ。）」がソフトテニスコート内に入ることが、認められた大会においては許容された時間内でプレーヤーに対して「監督・コーチ」が助言する事を認める。

競技規則第40条（異議申立て等の禁止）

プレーヤーはプレーの進行及び判定に関し、アンパイヤーに対して異議を申し立て、又は結果を不服として故意にプレーを中断してはならない。

- 2 前項の規定は、プレーヤーがアンパイヤーに対して質問をすることを妨げるものではない。ただし、質問に対する結果については、前項の規定を適用する。

〔解説17〕

2. プレーヤー（監督・コーチを含む）がボールの落下点を確認するため、ネット及びネットの仮想延長線を越えてはならない。また、自陣の前であっても落下点に近寄ってはならない。
3. プレーヤー（監督・コーチを含む）がボールの落下点の痕跡を消すことを禁止する。もしプレーヤー（監督・コーチ含む）自身が消した場合はインターフェアとみなし失ポイントとする。
4. 質問、提訴は個人戦のときはプレーヤー、団体戦のときはチームの監督又はそのプレーヤーのいずれかがアンパイヤーに申し立てることが出来る。ただし、ポイントの判定についてはそのポイントに限る。